

本書の読みかた

項目名。一般的な名称を見出し語としています。項目名の上には読みを、下には省略前の名称(項目名が英略語の場合)を記しています。

学習や仕事で役立つような項目や、あとで読む項目など、気になる項目があればチェックしておきましょう。

アイコン

ウェアラブルデバイス
(ウェアラブルコンピューター)

腕、肩、腰など、直接、身につけて持ち歩くことができる、小さくて軽いコンピューターのこと。「ウェアラブルコンピューター」「ウェアラブル端末」「ウェアラブル」と呼ばれることもあります。スマートフォンやノートパソコンのようにその都度、ポケットやバッグから取り出すのではなく、必要なときにすぐ使用できるように設計されています。

形状はさまざまで、たとえば「スマートウォッチ」とも呼ばれる、腕時計タイプはメッセージの送受信、スケジュール確認、地図の表示、音声による道案内、電子決済などの機能を持ちます。アップルの『Apple Watch (アップルウォッチ)』や、グーグルのスマートウォッチ用OS『Android Wear (アンドロイドウェア)』に対応する製品が代表的です。メガネタイプは「スマートグラス」とも呼ばれ、マイクロソフトの『HoloLens (ホロレンズ)』やグーグルの『Google Glass (グーグルグラス)』が注目を集めています。そのほか、体温や心拍数を測定するなど健康管理に役立つ着衣タイプやリストバンドタイプ、頭部に装着する「ヘッドマウントディスプレイ」タイプ、単体で音楽を楽しむイヤフォンタイプ、地図情報などが実際の風景と重なるコンタクトレンズタイプなどが、販売または研究されています。

野村総合研究所ではウェアラブルデバイスの市場について、2014年以降、年平均成長率52.6%で市場が拡大し、2020年には国内販売台数は556万台に達すると予想しています。いっぽう、次々と新たな技術や製品が生まれるなかで、製品や専用アプリケーションのサポートが継続的に行われるのか、スマートグラスなどによる隠し撮りや、健康状態など蓄積したデータの使われかたや情報漏えいといったプライバシー上の懸念点など、多くの課題も残されています。

アップル製品用のウェアラブルデバイス「Apple Watch」。メールチェックなどのほか、心拍数、運動量などの計測も可能

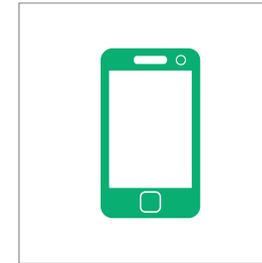
子ども向けのウェアラブルデバイス「Mott(モット)」。スマートフォンなどと連携し、手首につけて腕や手を動かして遊ぶ

© Mott

024

本書の「見出し語」はひとつではなく、たとえば「スマートフォンとタブレット」のように、ふたつのことばを見出し語としてすることがあります。テクノロジーに関することばは、ひとつひとつ解説するよりも、いくつかのことばとの関係性を示しながら解説したほうがわかりやすい場合があるためです。

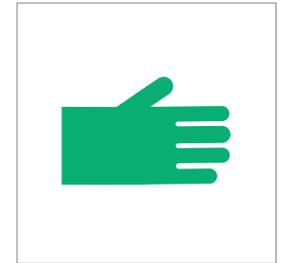
アイコンについて



機器



概念



サービス/政策



組織/イベント



技術



法律